

# 令和8年度 第1回広島市感染症対策協議会

【日 時】 令和8年4月20日（月）19:00～20:00

【場 所】 広島市役所14階第7会議室

【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、大毛 宏喜、吉岡 宏治、金子 朋子、増田 裕久、長岡 義晴、岡野 里香、阿部 勝彦

## 1 感染症に関する最近の情報

### (1) 国内における麻疹の発生状況について（資料1 P 1 ～ P 23）

令和8年第14週（3月30日～4月5日）までに診断された国内における麻疹の累積報告数は236例であり、過去5年の同時期と比較して大幅に増加している。特に、東京都内の飲食店や鹿児島市内の高等学校卒業式において集団発生が報告されるなど、全国的に感染が拡大している。

また、国は、令和8年3月31日、カナダ、スペイン及びイギリスなどの諸外国において麻疹の排除認定が取り消されていることや、国内における報告数の増加を踏まえ、麻疹及び風疹の定期接種対象者に対する積極的な接種勧奨等により、発生の確実な予防に努めるよう、各都道府県及び市町村等に対し、事務連絡を发出している。

本市としては、引き続き定期接種対象者に対する積極的な接種勧奨を行うとともに、人の移動が活発化するゴールデンウィークを迎えるに当たり、市民に対し、ホームページ等を通じて感染予防対策の周知徹底を図ることとする。

（委員意見）

- ・引き続き今後の発生動向に注視する必要がある。
- ・感染拡大防止のため、引き続き予防接種の接種勧奨に努めてほしい。

### (2) チクングニア熱のリスク評価等について（資料1 P 24 ～ P 34）

令和8年3月23日、国立健康危機管理研究機構が実施した、国内におけるチクングニア熱の感染等に関するリスク評価が公表された。

チクングニア熱は、チクングニアウイルスを原因とし、ネッタイシマカやヒトスジシマカによって媒介される蚊媒介感染症である。潜伏期間は2～12日であり、主な症状として発熱や関節痛がみられ、その他に全身倦怠感、リンパ節腫脹、頭痛、筋肉痛、皮疹等が出現する。ヒトからヒトへの直接感染はなく、治療は対症療法が中心である。

リスク評価によると、令和7年には、近年症例数が少なかった国を含む多くの国で再流行が確認され、40か国以上で44万を超える症例が報告されるなど、患者数の増加が指摘されている。特に、従来の流行地域に加え、中国南部や欧州等においても国内感染例が発生するなど、地理的な感染拡大が顕著となっている。

国内においては、現時点では国内感染例は確認されておらず、すべて海外で感染した輸入症例として届出されている。

しかし、中国、欧州など、これまで地域内流行の報告がなかった地域において一時的な流行が報告されるなど、世界的な規模で再拡大しつつあることから、国内におけるヒトスジシマカの発生状況の監視やヒトスジシマカのシーズンにおける蚊の発生の抑制といった媒介蚊対策の継続が重要であるとされている。

### (3) 広島県・広島市における結核菌 VNTR 検査結果の共有について (資料 1 P 35 ~ P 39 )

感染症法第 15 条の規定に基づき、本市では、平成 27 年 4 月から VNTR 法による結核菌分子疫学調査を導入し、結核発生動向の把握を行っている。

これまで、県・市それぞれが管轄区域内の結核患者において調査を実施しており、その結果が共有されていなかったが、この度、更なる結核の発生動向の把握・分析を目的として、県・市がこれまで実施した調査結果の共有を行った。

また、令和 8 年 3 月には、県、市、国家公務員共済組合連合会吉島病院で「結核菌分子疫学調査に係る意見交換会」を実施し、VNTR 型が 24 領域完全一致した結核患者グループについて検討を行ったところ、事業所等における集団感染の可能性が示唆された。

今後も、定期的に意見交換を行い、結核の発生及びまん延防止のため、発生動向の把握に努めていくこととする。

(委員意見)

- ・この取組みについては、感染源の探索・分析等を行う上で有用である。

## 2 3月の定点把握対象感染症発生状況《公開》（資料2、3）

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

## 3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	令和8年3月分	令和8年4月分
		報告日 3/2~4/5	報告日 4/6~4/14 現在
2類	結核	17人 (結核 12人, 潜在性結核 5人)	2人 (結核 2人, 潜在性結核 0人)
3類	腸管出血性大腸菌感染症	3人(2人(3/30), 1人(4/3))	1人(1人(4/9))
4類	レジオネラ症	3人(1人(3/2), 1人(3/11), 1人(3/27))	
5類	アメーバ赤痢	1人(3/26)	
	ウイルス性肝炎	1人(3/12)	
	急性脳炎	2人(1人(3/6), 1人(3/9))	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1人(4/14)
	播種性クリプトコックス		1人(4/13)
	侵襲性肺炎球菌感染症	4人(1人(3/2), 1人(3/19), 1人(3/23), 1人(3/24))	
	梅毒	10人(1人(3/4), 1人(3/9), 1人(3/10), 1人(3/11), 1人(3/13), 1人(3/21), 1人(3/25), 1人(3/27), 1人(3/30), 1人(4/4))	2人(1人(4/6), 1人(4/13))
	百日咳	3人(1人(3/2), 1人(3/3), 1人(3/30))	

( ) は届出日

## 4 その他《公開》

次回開催予定日 令和8年5月18日(月) 14階第7会議室

### 【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：3月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症（月報対象）の長期的変動

## 1 患者情報

### (1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、3月は11,533人であった。そのうち、急性呼吸器感染症（ARI）を除いた患者報告数は2,746人で、前月比0.40と大きく減少した。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はやや増加、水痘はほぼ横ばい、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、咽頭結膜熱、感染性胃腸炎はやや減少、RSウイルス感染症、急性呼吸器感染症（ARI）は減少、インフルエンザは大きく減少した。

### (2) 特記事項

- インフルエンザは、シーズン2度目のピークとなった第8週（2月16日～22日）以降減少が続き、第15週（4月6日～12日）に定点当たり0.82人の報告があった（図1）。県内では、4月9日にインフルエンザ警報が解除された。なお、シーズン中の定点当たり報告数の累計は第15週時点で511人と、過去10シーズンでは2023/24シーズンの529人に次いで多い。また、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等の累計は675件となり、過去10シーズンでは2023/24シーズンの813件に次いで多い。今シーズンの広島市衛生研究所による遺伝子検査では、AH1pdm09亜型が1件、AH3亜型が82件、B型（ビクトリア系統）が67件検出された。
- 感染性胃腸炎は、第15週に定点当たり5.14人の報告があった（図2）。減少傾向だが、3月以降、高齢者関係施設等で集団発生が9件報告されており、集団生活の場では特に注意が必要である。こまめな手洗い、便・吐物の適切な処理などの感染予防対策を徹底することが重要である。

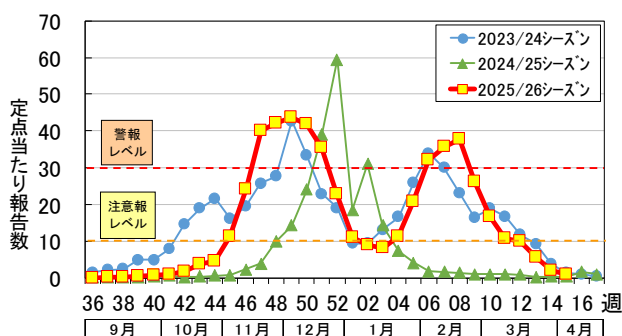


図1 インフルエンザの流行状況

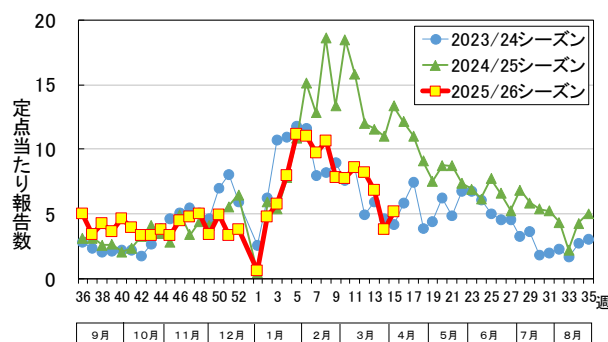


図2 感染性胃腸炎の流行状況

- 腸管出血性大腸菌感染症の今年の累計報告数は、4月12日時点で20件となった。感染予防には、加熱が必要な食品の十分な加熱、野菜・調理器具の洗浄や手洗いの励行などの対策を徹底することが大切である。
- 全国の麻しんの累計報告数は、4月5日時点で236件と、昨年同時期（66件）を大きく上回った。国立健康危機管理研究機構（JIHS）の感染症発生動向調査（IDWR）速報では、第14週に報告のあった34件のうち、25件が国内感染事例であった。

### (3) 3月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核17件（患者：12件、潜在性結核：5件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 3件
- 4類感染症：レジオネラ症 3件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 1件、ウイルス性肝炎 1件、急性脳炎 2件、侵襲性肺炎球菌感染症 4件、梅毒 11件、百日咳 3件

### (4) 今後の流行予測

感染性胃腸炎・・・【流行終息傾向】

## 2 検査情報

3月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取年月	患者数
伝染性紅斑 突発性発しん	*1 サイトメガロウイルス	2025年10月	1人
	*1 パレコウイルス3型		
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルスA6型	2025年10月	1人
流行性角結膜炎	アデノウイルス56型	2025年10月	1人
	アデノウイルス54型	2025年11月	2人
	アデノウイルス37型	2025年12月	1人
	アデノウイルス64型	2026年1月	1人
その他の発疹性疾患（発疹症）	*2 ライノウイルス	2025年11月	1人
	*2 パレコウイルス3型		
	*3 サイトメガロウイルス	2026年1月	1人
	*3 パレコウイルス3型		

\*1～3：複数病原体検出例

9人の患者から8種類のウイルス11株が検出された。検出ウイルスの内訳は、パレコウイルス3型が3株、サイトメガロウイルスが2株、コクサッキーウイルスA6型、アデノウイルス37型、同54型、同56型、同64型、及びライノウイルスが各1株であった。

【参考】ARI病原体サーベイランス検査結果（広島市感染症週報より）

感染症発生動向調査に基づくARI病原体定点医療機関からの搬入分のみ掲載

検体採取週	検査検体数	陽性検体数*	AH1p100 インフルエンザウイルス	AH3 インフルエンザウイルス	B型インフルエンザウイルス (ヒクトリア系統)	B型インフルエンザウイルス (山形系統)	新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)	A型RSウイルス	B型RSウイルス	ヒトメタニューモ ウイルス	パラインフルエンザ ウイルス1型	パラインフルエンザ ウイルス2型	パラインフルエンザ ウイルス3型	パラインフルエンザ ウイルス4型	ライノウイルス	エンテロウイルス	アデノウイルス
第10週	14	11			7		2			1	1						
第11週	13	10			4					3					3		
第12週	15	11			4					1	1				5		1
第13週	12	7			3				1						4	2	1
第14週	13	10			1		2	1	1	3					3		

\* 同一検体からの複数ウイルス検出例を含む（検査：広島市衛生研究所）

5類感染症定点情報  
(令和8年3月解析分)

1. 週報対象(第10週～第14週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点 当たり	今後の 予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点 当たり	今後の 予測
1	急性呼吸器感染症 (ARI)		8,787	259.75		11	突発性発しん		23	1.11	
2	インフルエンザ		1,515	44.62		12	ヘルパンギーナ		6	0.30	
3	新型コロナウイルス 感染症(COVID-19)		75	2.21		13	流行性耳下腺炎		6	0.29	
4	RSウイルス感染症		32	1.54		14	急性出血性結膜炎		1	0.13	
5	咽頭結膜熱		19	0.93		15	流行性角結膜炎		22	2.76	
6	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎		249	11.97		16	細菌性髄膜炎		-	-	
7	感染性胃腸炎		736	35.23		17	無菌性髄膜炎		-	-	
8	水痘		30	1.44		18	マイコプラズマ肺炎		12	2.00	
9	手足口病		1	0.05		19	クラミジア肺炎		-	-	
10	伝染性紅斑		4	0.20		20	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)		1	0.17	

2. 月報対象(3月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点 当たり
1	性器クラミジア感染 症		43	4.78
2	性器ヘルペス ウイルス感染症		12	1.33
3	尖圭コンジローマ		6	0.67
4	淋菌感染症		15	1.67
5	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		14	2.33
6	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症		-	-
7	薬剤耐性 緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね 1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね 1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね 1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数 のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(令和8年3月分)

第10週～第14週(3月2日～4月5日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国		
		報告数	累積	報告数	累積	
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-	
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	
	3 痘そう	-	-	-	-	
	4 南米出血熱	-	-	-	-	
	5 ベスト	-	-	-	-	
	6 マールブルグ病	-	-	-	-	
	7 ラッサ熱	-	-	-	-	
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-	
	9 結核	17	39	1,329	3,494	
	10 ジフテリア	-	-	-	-	
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-	
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-	
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-	
三類	15 コレラ	-	-	-	-	
	16 細菌性赤痢	-	-	14	24	
	17 腸管出血性大腸菌感染症	3	19	187	445	
	18 腸チフス	-	-	1	6	
	19 パラチフス	-	-	1	5	
四類	20 E型肝炎	-	-	50	171	
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-	
	22 A型肝炎	-	1	28	51	
	23 エキノコックス症	-	-	3	4	
	24 エムボックス	-	-	17	35	
	25 黄熱	-	-	-	-	
	26 オウム病	-	-	-	1	
	27 オムスク出血熱	-	-	-	-	
	28 回帰熱	-	-	-	-	
	29 キャサヌル森林病	-	-	-	-	
	30 Q熱	-	-	-	-	
	31 狂犬病	-	-	-	-	
	32 コクシジオイデス症	-	-	1	1	
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-	
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	3	7	
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-	
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	
	38 炭疽	-	-	-	-	
	39 チクングニア熱	-	-	-	-	
	40 つつが虫病	-	-	3	34	
	41 デング熱	-	-	7	24	
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-	
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-	
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-	
	45 日本紅斑熱	-	-	4	7	
	46 日本脳炎	-	-	1	1	
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	
	48 Bウイルス病	-	-	-	-	
	49 鼻疽	-	-	-	-	
	50 ブルセラ症	-	-	-	-	
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	
	53 発しんチフス	-	-	-	-	
	54 ボツリヌス症	-	-	-	-	
	55 マラリア	-	-	7	10	
	56 野兎病	-	-	-	-	
	57 ライム病	-	-	-	-	
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
	60 類鼻疽	-	-	-	-	
	61 レジオネラ症	3	4	131	435	
	62 レプトスピラ症	-	-	1	3	
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
	五類	64 アメーバ赤痢	1	4	60	128
		65 ウイルス性肝炎	1	1	17	51
		66 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	-	2	102	263
		67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	-	6
		68 急性脳炎	2	4	44	127
		69 クリプトスポリジウム症	-	-	-	3
		70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	21	43
		71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	139	419
		72 後天性免疫不全症候群	-	1	89	230
		73 ジアルジア症	-	-	4	9
		74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	52	143
		75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	6	16
		76 侵襲性肺炎球菌感染症	4	9	305	880
		77 水痘(入院例に限る。)	-	-	73	193
		78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
		79 梅毒	11	25	1,110	2,767
		80 播種性クリプトコックス症	-	-	20	53
		81 破傷風	-	1	5	18
		82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	10	23	
84 百日咳		3	17	504	2,219	
85 風しん		-	-	-	1	
86 麻しん		-	1	149	236	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	1	6	